

第3回世界水フォーラム

第3回世界水フォーラムの成果

21世紀は環境の世紀と言われ、いわゆる地球環境問題と呼ばれている「地球温暖化」や「オゾン層の破壊」、「酸性雨」、「海洋汚染」等の問題について、国や地方自治体、NGO等さまざまな機関が協力し、問題の解決に向けた取り組みが進められているところです。

さらに近年、水不足や水の汚染、洪水の危険等の水に関する問題がクローズアップされています。この背景には、水不足やそれに起因する食料不足、また水質汚濁等の影響により多くの人命が奪われ、ある生物が絶滅の危機に瀕し、さらに水問題が原因で、ある地域では紛争が起きているという実態があります。

このような水問題の解決に向けた話し合いをするために、3月16～23日の8日間にわたり、京都・滋賀・大阪を結ぶ

琵琶湖・淀川流域において、「第3回世界水フォーラム」が開催されました。

この会議には、182の国・地域から約24,000人が参加し、「水と気候変動」「水供給、衛生及び水質汚染」などをテーマにした分科会やイベントが行われました。また、22,23日の2日間にわたり、世界各国の水関係閣僚による閣僚級国際会議が開催され、最終的には閣僚宣言が採択されました（閣僚宣言のほか、水行動報告書、フォーラム声明文（暫定版）、水行動集等が発表されています）。

閣僚宣言の大枠は以下のとおりですが、水の民営化に関しては意見の統一が図れず、ステートメントをまとめるまでには至らなかったようです。

- ・ General Policy (全般的政策)
- ・ Water Resources Management and Benefit Sharing (水資源管理と便益の共有)
- ・ Safe Drinking Water and Sanitation (安全な飲料水と衛生)
- ・ Water for Food and Rural Development (食料と農村開発のための水)
- ・ Water Pollution Prevention and Ecosystem Conservation (水質汚濁防止と生態系の保全)
- ・ Disaster Mitigation and Risk Management (災害軽減と危機管理)



▲展示風景（当社ブース）

我が国の国民は、他の国に比べて安全な水を容易に手に入れることができるため、水に対する意識が低いと言われていますが、今後この会議の成果をふまえ、我々も水問題に対する意識を高め、人が生活する上で必要な水、食料生産・交通・エネルギー・環境に必要とされる水のバランスの適正化が図られることが望まれます。

当社の出展概要

当社はフォーラム開催期間中、京都・大阪の展示会場においてパネル展示と微量有機化学物質濃縮装置の展示を行い、滋賀会場においては「流域水環境統合管理システム」に関する分科会を企画・主催し（龍谷大学、京都大学、富士電機㈱と共催）、多くの方にお立ち寄りいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。